

吟

稲吟OB会会報

No.23

稲吟OB会公式ホームページ <http://www.togin.org/>

発行：2005（平成17）年8月1日 発行者：早稲田大学稲吟OB会事務局

編集発行責任者：田中ゆみ子（稲吟OB会事務局） 通巻第23号「稲吟OB会NEWS」改題

◆記事・情報等は…（田中）までお寄せください。

——2005年11月12日（土）於：早稲田大学

追憶から 未来へ

創立50周年記念大会 いよいよ開催

1956（昭和31）年、都の西北に産声を上げた学生詩吟クラブが、世情や学生気質の変化もものかは、ついに今秋、半世紀の偉大なる時を刻むことになりました。文化系の学生団体が50周年を迎えるのはきわめて奇蹟的なことで、これまで稲吟会にかかわってこられたすべての方の想いが成し遂げた快挙にほかなりません。稲吟会と稲吟OB会はこの節目を盛大かつ有意義に祝すべく、来る11月12日（土）に早稲田大学において、創立50周年記念大会（記念吟詠発表大会／記念祝賀会）を開催いたします。当日はぜひご参集いただき、なつかしい仲間との再会、稲吟会の「現在」との邂逅、そして、次なる半世紀を展望する契機としていただければ幸いです。皆様とお目にかかれまことを心より楽しみにしております。

早稲田大学稲吟会創立50周年記念大会 実施要領 記念吟詠発表大会／記念祝賀会

主催：早稲田大学稲吟会 早稲田大学稲吟OB会

OB側共同発起人：

青木 敏昭 野中 民蔵 松岡 宣夫 須田 芳矩 藤田 和夫

OB側実行委員会：

大会委員長 小出 秀文（稲吟OB会会長） 実行委員長 志水 泰晴

日時：2005（平成17）年11月12日（土）

会場：早稲田大学

記念吟詠発表大会：大隈大講堂

記念祝賀会：大隈ガーデンハウス カフェテリア（大隈庭園内）

10月上旬ころ正式のご案内状を発送いたします。出欠はがきのご返送をお願い申し上げます。

目次 創立50周年記念大会開催ご案内・・・1 小出会長より・・・2 OB 会員賛助金のお願い・・・3

創立50周年記念大会開催要項・・・4 カウントダウン祭報告・・・5 草創期OBの集い報告・・・6

大川吾風先生記念大会・稲吟会夏合宿のお知らせ・・・7 稲吟会の練習・1年生の感想・・・8

創立 50 周年記念大会の開催にあたり 会員の皆様へ

早稲田大学稲吟OB会
会 長 小出 秀文 (昭48)

暦の上では立秋であります。連日の猛暑が続きます。ご無沙汰いたしておりますが、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、本年は稲吟会創立 50 周年の記念いたすべき年であります。来たる 11 月 12 日の土曜日には東京の早稲田・大隈講堂で多くの皆様にお会いできますよう只今から楽しみにいたしております。

早大の文系サークルは毎日のように結成され毎日のように消滅もあると伺います。時代変化の潮流の激しい今日、一つの文系サークルが消滅の危機を克服いたしながら 50 年の星霜を経ましたることについて、一の井を掘られた方々、連綿と歴史を継承・発展させてこられた方々、そして今ある学生の皆さんに感謝を申し上げながら、稲吟会の創立 50 周年記念大会を明日への活力を確認する記念式典にいたしたいと願っております。

幸いにも、学生の皆さん、実行委員の皆さんの準備が着々と進められておりますし、これに呼応する形で各期の同窓会、地域単位の交流会が盛会に開催されておりますことについて、まことに心強く感じております。

稲吟OB会の皆様に謹んで創立 50 周年記念大会の御支援と御出席を心からお願い申し上げます。

2005 (平成 17) 年 8 月 7 日 (市原の自宅より)

創立 50 周年記念大会 OB 会員賛助金のお願い

2005 年 8 月 OB 側実行委員会

本大会は、2000（平 12）年の創立 45 周年記念大会における特別会計の残余分と、以後の各年度において通常会計から繰り入れた予算に、大会にご参加くださる会員の皆様をお願いする**賛助金**を加えて運営されます。準備上の事情をご高察の上、何とぞご協力のほどお願い申し上げます。

- 賛助金は、1 口 5,000 円で、**2 口以上**のご納入をお願いしております。
- 賛助金には、大会（記念吟詠発表大会／記念祝賀会）参加費と記念品代が含まれています。
- 原則的に、大会にご参加くださる方に賛助をお願いいたしております。ご都合が悪く当日ご参加いただけない方で賛助金をお振込みいただいた場合には、後日記念品等をお送りいたします。
- 大会当日もお預かりできますが、なるべく事前のお振込みにご協力ください。

創立50周年記念大会 専用口座
東京三菱銀行市ヶ谷支店 普1050657 「稲吟OB会」

今号で、稲吟OB会の年会費（7,000 円）のご納入もお願いしております。時期が重なり、ご負担をおかけしますが、何とぞご海容ください。なお記念大会賛助金と年会費を同時にお納めになる場合には、同封しました年会費用の振替票をご利用になり、通信欄に「賛助金×口を含む」と明記のうえ、お近くの**郵便局でお振込み**ください。よろしく願いいたします。

早稲田大学稲吟会 創立 50 周年記念大会

*この内容は2005年8月現在の概要です。細部の変更が見込まれますが、後日詳報します。

■記念吟詠発表大会 於 大隈大講堂

開場 12:00 開演 12:30

開会宣言
学生全合吟 書懷
学生発表第一部 勇壯の部
創立 50 周年記念式典／師範吟詠
学生発表第二部 絢爛の部
創立 50 周年記念OB企画
学生構成吟 「未来へ」
学生・OB合同大合吟
早稲田大学校歌
閉会宣言

■記念祝賀会 於 大隈ガーデンハウス

稲吟OB会定例総会 17:30 祝賀会開宴 18:00

創立 50 周年記念大会 OB側実行委員会(本部関係)

共同発起人	青木 敏昭 (昭 35) 野中 民蔵 (昭 40) 松岡 宣夫 (昭 41) 須田 芳矩 (昭 42) 藤田 和夫 (昭 45)	
大会委員長	小出 秀文 (昭 48)	
実行委員長	志水 泰晴 (昭 56)	
総括副委員長	古賀 毅 (平 4)	*本部総括、記念誌
副委員長	松村 哲郎 (昭 48)	*記念誌、式典
副委員長	山田 仁史 (平元)	*記念企画、祝賀会
副委員長	大竹 茂行 (平 3)	*記念企画、祝賀会
委員 (常任幹事)	金子 堅吾 (昭 35) 小林 行雄 (昭 44) 船木 隆行 (平元) 矢田 行人 (平 3) 菅原 均 (平 4) 立川 一樹 (平 9)	
委員 (企画・運営)	福沢 衛二 (平 9) 板倉 真介 (平 10) 矢澤 泰幹 (平 10) 石井 慎也 (平 11)	*会計担当

秋まで待てない！ 学生・OB交流の宴 記念大会 カウントダウン祭

創立 50 周年記念大会まであと半年と迫った 3 月 5 日(土)、西早稲田の中華料理店・華翠苑(かすいえん)において、稲吟OB会・稲吟会共催の記念大会カウントダウン祭が開かれ、各年代のOBと学生あわせて 50 名以上が参加し、盛会でした。



5 年ごとの記念大会では、その 1 年前の秋に稲吟OB会が主催して前年祭をおこなうのが慣例になっていましたが、2 年前から定例総会を秋に移動したことに伴い、半年前の「カウントダウン」になったものです。また、稲吟会と共同主催にすることで、何よりも学生あつての記念大会であるという思いをを互いに強めることになったと思われます。この時期(3 月)は春合宿や新入生の勧誘と重なり、新年度を前に士気の高まるころで、多くの卒業生が語る「半世紀への思い」に接して、あら

ためてその重みを感じたという学生の声も聞かれました。OBの側も、学生たちの若さと変わらぬ活発さに触れて、楽しいひとときを過ごせました。

席上、稲吟会の浅田俊祐幹事長(社 3)、稲吟OB会の小出秀文会長(昭 48)から、記念大会へ向けての抱負や決意が表明されました。また、出席したOB・学生の紹介がおこなわれたほか、残念ながら参会できなかったOB会員が返信はがきに寄せたコメントが、学生によって読み上げられました。



会場となった華翠苑は、「つなごう半世紀へ！」と題して開催された創立 45 周年記念大会の前年祭(1999 年 11 月)がおこなわれた場所。当時、さまざまな困難を越えてようやく半世紀への展望が開けてきた中で、従来型の「昼敷き・上座あり・平日開催」を初めて打ち破る試みで成果を上げたことが思い出されます。5 年が経って、同じ場所から、いよいよ半世紀を迎えるのだと実感せざるをえませんでした。

意義深かったカウントダウン祭

稲吟会副幹事長 渡辺 恵士朗(人科2)

カウントダウン祭では久々にお会いしたOBの方々や初めてお会いしたOBの方々ともお話しすることができ、大いに楽しいひと時を過ごすことができました。また、いらっしやることのできなかったOBの方々からのお言葉をご紹介することもでき、自分も含めお集まり下さった学生、OBの方々の士気が記念大会に向けて大いに高まったと思います。記念大会に向けてまたこのような学生とOBの方との交流の場があればよいと思います。

来る 9 月 2 日(金) 18 時 30 分(予定)より都内会場にて、小出会長・志水実行委員長・古賀副委員長主催の学生交流会(兼 夏合宿壮行会)を開催します。出席ご希望の方は古賀(tsuayoshi@aoni.waseda.jp)までお問い合わせください。会場が決まりしだいご連絡いたします。

草創期の思い出と 50 年への決意と

..... 昭 33~41 卒OBの集い 盛大に

5月28日(土)午後、東京のアルカディア市ヶ谷(私学会館)において、昭和41年卒までのOBの会が、30名近い有志を集めて盛大におこなわれました。まもなく50周年を迎える稲吟会を創建し、それを継承して伝統集団への飛躍のきっかけをつくった年代だけに、記念大会への思いはひとしおで、互いに思い出をなつかしみながら秋へ向けてさらに多くの仲間を募ろうと語り合ったことでした。



草創期の思い出を語る 平木輝生さん(昭33)



半世紀へ！ 高らかに「都の西北」

◆大川吾風先生 会創立 30 周年&芸道 40 周年記念大会

吟詠・詩舞を長年にわたってご指導いただいている大川吾風先生の主宰する吾風会がこのほど創立 30 周年を、大川先生が芸道 40 周年を迎えられたのを記念する大会が開催されます。稲吟会・稲吟OB会は合同で大会に参加し、同会および大川先生のご発展を祝して吟詠する予定です。同大会への参会を希望する方は事務局までお知らせください。

日時：2005 年 10 月 23 日（日） 10:00～

会場：北浦町文化会館

茨城県行方市山田 375（現北浦町 9 月より行方なめがた市に変更） TEL: 0291-35-2908

◆ 稲吟会夏合宿のお知らせ

この夏も稲吟会夏合宿が行われます。9 月 6 日(火)からは大川先生がお見えになるそうです。

また、9 日(金)午後からは海水浴、10 日(土)にはコンパだそうです。

期間:9 月 5 日(月)～11 日(日)

場所:「沼田(ぬまた)」千葉県安房郡富山町久枝496

TEL:0470-57-2158

最寄駅:JR 内房線 岩井駅

学生問い合わせ先:浅田俊祐



←100 キロハイクにて



早慶戦にて→

創立 50 周年記念大会に向けた取組み

稲吟会幹事長 浅田 俊祐(社3)

創立 50 周年記念大会に向けての練習として、今年度は通常の昼練習や学館練習以外の時間に行う吟や舞、殺陣などの練習を例年よりも多く設けて技術向上に努めております。この通常の練習以外の時間では主に記念大会に向けた剣扇舞の練習を行っておりますが、昼練習や学館練習に来ることができない会員、特に今年度は人間科学部や理工学部など通常の練習に通うことが困難な会員が増えており、このような会員に対して不足を補うための練習も行っております。

昼練習では短い時間内でいかに濃い練習を行うかを考えております。現在は1年生の吟力向上を目的として、1年生には常に指導の上級生が付くようにしております。これによって1年生が手持ち無沙汰になることを防ぎ、また上級生も指導を通して刺激を得る事ができております。

学館練習では発表会の緊張した状況で詩吟をすることに慣れるため、真剣な態度で臨むように各人心がけております。また必ず複数の上級生に講評を行わせることによって様々な意見が聴けるようにしております。

大川先生練習は、会員数増加によって毎回全員が御指導して頂ける訳ではありませんが、短い時間内における具体的かつ的確な御指導は会員にとって貴重な経験となっております。また、大川先生は練習後のコンパに参加して下さることもある気さくな方で、会員一同大変楽しくご指導頂いております。

今年度は創立 50 周年ということもあり、会員一同例年以上に気合を入れて練習に励んでおります。発表会においてもOBの方々の御期待にこたえられるような内容にするべく努力しておりますので、これからも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。

私の稲吟会に入ったきっかけ

竹之内 弦(一文1)

入学式を翌日に控えた2005年3月31日、私は春から通うことになる早稲田大学に下見に行っていた。構内は既に新歓活動で賑わっており、私はそのあまりの熱気に圧倒されていた。いろんなサークルから勧誘を受けたのだが、どうもピンとくるものがなかったので、私はただぶらぶらと歩き回っていた。そのとき、私は突然一人の先輩に声をかけられた。

「詩吟に興味はありますか?」と。

それが私と稲吟会の出会いだった。実は私は以前から古典芸能というものに興味を持っていたが、しかし積極的にサークルを探そうとも思っていなかったので、声をかけられたのはいい機会かもしれないと思い、そのままブースに行った。

私が最初に感じたのはこのブース内の、稲吟会の皆さんの雰囲気の良い良さであった。そのとき私は地方から上京してきたばかりで、周りには当然知り合いも、まして友達もいなかった。しかし先輩方はそんな私にも非常に親切に、優しく接してくれた。その翌日、入学式の後にも、私の足は自然と稲吟会のほうへ向かっていた。先輩方は私を見つけると、前日と変わらぬ笑顔で私を迎えてくれた。私はそのとき、稲吟会の入会を決めたのだと思う。「このサークルなら、充実した大学生活がおくれるだろう」と、心からそう思えた。

新学期も過ぎて、最近ではようやく大学にもなじめてきたように感じるが、稲吟会に入ってよかったと思っている。詩吟という古典芸能はもちろん、このサークルに入らなければすることのなかったであろう経験もさせていただいた。私はこの伝統あるサークルの一員として、これからも多くの経験を積み、成長していきたいと思っている。